

令和8年産 大豆情報 (Vol.3)

令和8年9月9日

宮城県石巻農業改良普及センター

Tel : 0225-95-7612

Fax : 0225-95-2999

技術情報はこちらのQRコードからもご覧いただけます！



今後のポイント: 病害虫・雑草防除、排水対策の再点検、収穫機械・乾燥施設の点検・整備

7月から8月の気象経過と一か月予報

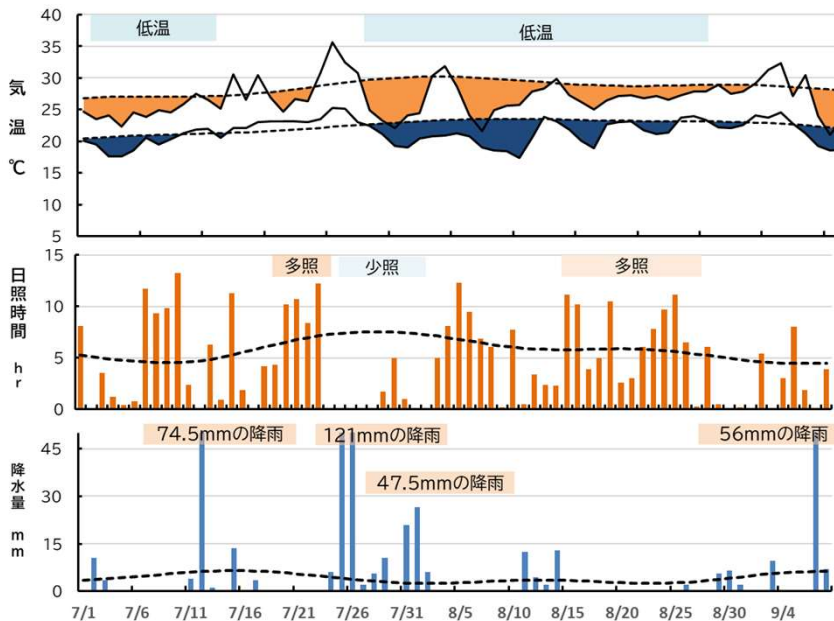


図1 気象経過 (アメダス石巻)

※上: 最高・最低気温、中: 日照時間、下: 降水量

※点線は平年値(過去5か年平均)

◆8月: 高温多照

- ・平均気温は平年より -1.7°C 低くなりました。
- ・日照時間は平年比 85 %と少なくなりました。
- ・降水量は平年比 89 %と少なくなりました。

◆向こう1か月予報(9/5~10/4)

仙台管区気象台9月3日発表

1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

【気温】	10	20	70
【降水量】	20	40	40
【日照時間】	30	40	30

■低い(少ない) ■平年並 ■高い(多い)

週別気温経過の各階級の確率(%)

1週目	20	50	30
2週目	10	20	70
3~4週目	10	20	70

■低い ■平年並 ■高い

1週目: 9/5~9/11、2週目: 9/12~18

3~4週目: 9/19~10/2

生育調査(8月31日)結果

表1 8月31日生育調査結果

品種 (作型)	地点名 (旧市町)	播種日(月日)			開花期(月日)			主茎長(c m)			主茎節数(節/本)			分枝数(本/本)			分枝数(本/㎡)		
		本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差
タンレイ	須江 (河南)	6/11	-5	-3	8/02	+5	+5	50.7	-14.9	-21.9	14.0	-2.1	-1.4	2.5	0.0	0.0	34.5	+2.3	+2.2
すずみのり	蛇田 (石巻)	7/01	+24	-	8/07	+13	-	37.5	-16.0	-	9.8	-3.1	-	2.3	+0.3	-	42.1	+6.8	-
ミヤギシロメ	小船越 (河北)	6/12	-5	+3	8/06	+1	+1	56.2	-21.5	-30.4	14.8	-1.5	-1.0	3.5	-1.3	-0.3	40.3	+4.0	-3.2
	大曲 (矢本)	6/17	-15	-	8/10	+3	-	73.0	-20.7	-	14.7	-1.6	-	3.6	+1.0	-	42.5	+10.2	-

※1 平年差: R2~R7の平均(平年値)との差

※2 「-」は早い、短い、少ない、「+」は遅い、長い、多いを示す

※3 蛇田すずみのり、大曲ミヤギシロメは、令和7年産から調査開始のため、平年差はない。

- ◆主茎長は、37.5~73.0cmと、全てのほ場で前年・平年より短くなりました。
- ◆主茎節数は、9.8~14.8節/本と、全てのほ場で前年・平年より少なくなりました。
- ◆面積あたりの分枝数は、34.5~42.5本/㎡と、全てのほ場で前年より多くなり、平年差ではタンレイで2.2本多く、ミヤギシロメで3.2本少なくなりました。

◆ 排水対策

- ◎ 落水口や明きよの点検・整備をするとともに、大雨が予想される場合には、畝間の水を効率的に排出するために、枕地の畝を切って明きよ・落水口につなげましょう。

◆ 雑草対策

- ◎ 8月以降多くの雑草が種子をつけ始めるため早めの除草が必要です。
- ◎ 特に、タデ類、アメリカセンダングサ、シロザ、イヌホオズキなどの大型雑草や、アレチウリ、帰化アサガオ類などのつる性雑草は、収穫作業に重大な障害を及ぼし、減収や汚粒など品質低下の原因になります。雑草が種子を作らないうちに手取り除草を行いましょう。



タデ類

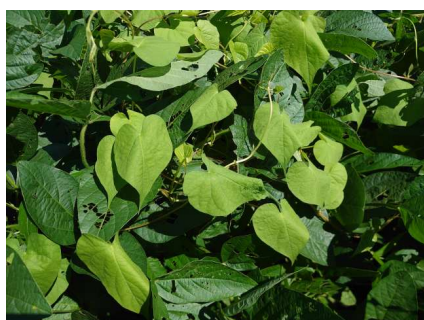


シロザ



イヌホオズキ

- ◎ 一部の除草剤では「つり下げノズル」や「万能散布バー」を利用した畦間(・株間)散布が可能です。散布方法や使用時期(収穫前日数)などが異なるため、使用の際は最新の登録内容を十分確認しましょう。
- ◎ ほ場に落ちた雑草種子の多くは湛水(水田)状態でも3年以上は生存するので、ブロックローテーションによる田畑輪換での減少は望めません。種子をつけた雑草は、ほ場外に搬出しましょう。
- ◎ 帰化アサガオ類などの難防除雑草が多発生したほ場で、次作以降に大豆を作付けする場合には、有効な土壌処理剤の利用(一例:QRコード参照)及び体系防除を検討しましょう。



ダイズ畑に侵入している帰化アサガオ類

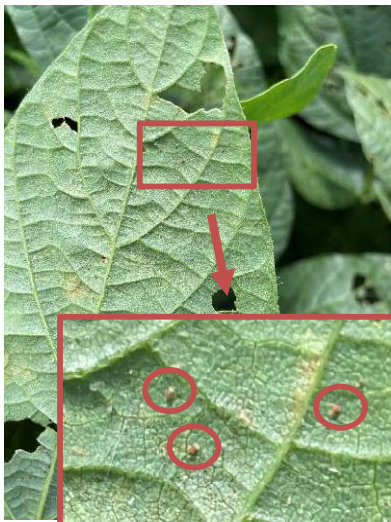


宮城県「普及に移す技術」第99号
トリフルラリン乳剤の大豆播種前全面土壌混和
による帰化アサガオ類の初期防除効果の向上

8月下旬ごろから管内でハダニ類による被害が報告されています

◎ハダニ類による被害の特徴

- ・ **発生**: 管内ではこれまで沿岸部を中心に発生が確認されてきました。しかし、高温乾燥の気象条件で増加しやすいため、近年では内陸部(河南・河北・桃生等)でも確認されています。
- ・ **症状**: ハダニ類に吸汁された部分は白く「カスリ状」となります。さらに被害が進展し葉全体に進むと黄色を経て褐色に変化し(下写真)、最終的には落葉し、枯死します。
- ・ **子実への影響**: 枯死しない場合でも早期落葉に由来する転流不足により、小粒化・しわ粒の増加などが想定されます。



ハダニ類(2023年8月)



白くカスリ状になった葉(2023年8月)



葉が黄変した葉(2023年8月)

被害の程度から費用対効果を考えて防除の要否を判断してください。
なお、多発してからでは防除効果が劣ります。
防除する場合は少発生のうちに対処することを勧めます。

表2 だいでハダニ類に適用がある農薬

商品名	IRAC コード	希釈倍数 使用量	散布液量	使用方法名称	使用時期	総使用回数
マラソン乳剤	1B	1000～3000倍	100～300L/10a	散布	収穫7日前まで	3回以内
トクチオン乳剤	1B	1000～1500倍	100～300L/10a	散布	収穫30日前まで	3回以内
コロマイト乳剤	6	1500倍	100～300L/10a	散布	収穫7日前まで	2回以内
ニッソラン水和剤	10A	2000～3000倍	100～300L/10a	散布	収穫7日前まで	2回以内
グレーシア乳剤	30	2000～3000倍	100～300L/10a	散布	収穫14日前まで	2回以内
カスケード乳剤	15	4000倍	100～300L/10a	散布	収穫7日前まで	2回以内
		32倍	0.8L/10a	無人航空機 による散布	収穫7日前まで	2回以内

令和8年9月1日の農薬登録内容を基準に作成しています。農薬散布を行う場合は事前に最新情報で農薬登録を確認の上、使用してください。また、農薬使用の際には飛散防止対策を講じてください。